



福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆

希望 創造 潤い

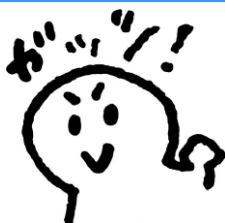
昭島市立福島中学校

令和8年7月1日 NO. 4

042-541-2940

創立47年目（昭和55年開校）

努力に即効性なし



校長 前川 法彦

テスト生から一軍に昇格した元プロ野球選手で、後に名監督といわれた野村克也さんという方がいました。選手の育成をはじめ、ケガや成績の伸び悩んだ選手が多かったチームを優勝させるなど活躍されていました。野村さんは、戦時中を生きてこられて家族を楽にさせたいとの思いで目指したそうです。

選手時代、プロでは「ダメになるのも、よくなるのも自分次第」と言われていたので、派手に遊ぶ先輩たちを見て、心の中では迷いながら誘いを断り、後悔だけはしたくないという一点で練習を重ねていたそうです。野村さんより才能があったのに契約されず、やめていく選手もたくさんいて、そのとき彼らは「もっと頑張っておけばよかった」とみんなが同じことを言っていたことが自分の意識に残ったこと。

監督時代では「入団をゴールだと思わないこと」「努力に即効性はない」の2つのことを伝えていました。一流選手にあこがれて野球一筋、プロ野球の世界に入ること達成感がある。しかし、それは一流選手として活躍するためのスタート地点に立ったということで、活躍するためにはより一層努力をしていく必要がある。また、大変なのは実を結ぶまで早くても2年、3年の時間がかかり、長い目で見たときに努力をした人と努力をしていない人の差が見えてくる。今の選手は才能もあり、いい条件で契約するけれども、横道にそれてしまうことや一流選手になるという夢をどこかで捨ててしまう。だからこそ「もっと頑張っておけばよかった」とならないようにしているということでした。

チャンスがあったとき、それを活かすかどうかは準備を重ねている自分自身になります。いつでも力が発揮できるように、目標に向けて向上心をもって、挑戦・チャレンジを続けていきましょう。